

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600908		
法人名	株式会社 オフィス21		
事業所名	グループホーム はなえみ		
所在地	帯広市東6条南13丁目1番地		
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平屋建て、2ユニットを運営しており、各ユニットは玄関横の渡り廊下でつながっています。付近には、小・中学校や食品スーパー、ドラッグストア、クリーニング店、美容室などがあり、利用者の方が買い物や髪セットに出かけたりします。町内会に入会しており、町内会行事に参加したり、中学校の職業体験学習の受け入れをしたり、近くの保育園の運動会や発表会の総練習を見に行ったり、また、園児さんにホームに来てもらったりと、地域の方との交流もあります。月に1度の施設行事は、交流をかねてユニット合同で行ったり、毎週水曜日には、趣味の会として、利用者の方が喜んでいただける事を常に考慮しながら、職員が企画し行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0174600908-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0174600908-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 2月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い駐車場を有し、家族などの訪問には利用のしやすい立地となっており、ユニット間の交流も容易に出来るなど大きな利点となっています。このホームでの優れた点は、一つにホームでの事故防止に対する取り組みに職員すべての共有が見られることです。「ヒヤリハット」は、少ないものの事故を未然に防ごうとする職員の些細な気付きが綴られています。二つには、利用者の排泄に関わる適切な支援があげられます。出来るだけオムツに頼らない、また、パットの使用にも利用者の状況にマッチした種類の選択をするなどトイレでの自立排泄への支援が継続されています。ホームの名にあるように利用者と家族が咲いた花のような華やかな笑顔づくりに職員が一丸となって取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者や家族が共に笑顔で居心地の良い場所となれるように心掛けています。事務所の壁に理念を張り付けて、いつでも確認できるようにしています。	利用者の、そして家族の笑顔により、咲いた花のように美しく満ちたりた暮らしを創造したいというホームの理念は、管理者を始めとする職員全ての約束事として毎日のサービスに反映されています。今後は家族にも理解されるような、掲示方法を考慮する予定としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、町内会の行事(清掃や夏祭りなど)に参加して、地域のみなさんと交流したり、近くのスーパーや美容室などに利用者の希望で出かけたり、近くの保育園の運動会や発表会の総練習を見せてもらったりしています。	町内会を始めとする地域の方々の理解の下、様々な行事や集いに参加しており、温かな交流を通して利用者の笑顔が日々継続するよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練に町内会の方に参加していただき、利用者とのかかわりを通じて理解に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でいただいた意見は、速やかに法人の代表を含め検討しています。運営推進会議の内容は職員会議にて全職員に報告しています。	町内会の方、民生委員、地域包括支援センターの職員、家族などのメンバーによる定例の会議が開催され、ホーム及び利用者の状況、行事、ホーム内の事故報告があり、それに続く質疑応答が議事録から視えますが、家族の出席が少ない状況にあります。	議事録には家族代表とありますが、代表ではなく全ての家族を対象とした会議案内の送付を期待しません。会議で家族を含めた地域の方々にホームが地域に開かれたサービスを目指していることを理解していただく取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な場合は、その都度連絡を取り合っています。事故報告もしています。	ホームは、市の行政に深く関係しており緊密な連携が見られます。従来の相談に加えて外部評価で得られた内容を具に報告しながら、更に連携を深めようとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、日常的に私たちのケアが身体拘束とならないか、確認しています。施錠については、利用者の状況により解放できる時間を見つけ、積極的に取り組んでいます。	玄関の施錠は、利用者の状況を良く把握しながらできるだけ施錠をしない方策を実践しており、今後は更に見守りの徹底化により、常に玄関の開放が出来るよう身体拘束廃止委員会で検討を重ねることとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、それを勉強会として職員が学ぶ機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の運営推進会議にて、地域包括支援センターの社会福祉士の方に制度の説明をしていただき、職員会議で、勉強会をしました。現在、制度を利用している方もいます。職員は地域の成年後見制度の研修会に参加し、知識を得たりし、必要に応じて利用者の方やご家族に制度を進めていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明には、一つ一つ時間をかけて行い、その都度質問に答え、ご家族の要望をお聞きし納得いただいているから、署名・捺印をしてもらっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にいらした時に、意見を聞かせていただいたり、苦情申し立て箱を設置したりし、いつでも意見を言いやすい環境づくりに努めています。意見をいただいたときは、速やかに対応するようにしています。	家族が面会に訪れたとき、あるいは電話などにより意見や要望を聞いています。また、玄関内に設置の「苦情申し立て箱」では十分な効果が期待できないことから、名称を変更して家族の意見やアイデアを募り、ホームの運営に反映するよう家族の理解を得ることとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の職員会議、年1回のOJTチェック評価の面談などを通じて意見を聞くように努めています。職員の意見で実践できることは速やかに業務に反映させています。	管理者は、普段の業務にあつて職員が明るく忌憚のない会話ができるよう気配りをしています。毎日の申し送りやミーティング、更には毎月開催される両ユニット合同の会議においても活発な意見交換が出来るよう、風通しの良い雰囲気作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任は常に職員の動向等を代表者に報告し、職員の能力や職場環境について話し合い、職員一人一人に合わせた仕事配分や条件をその都度見直ししています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェック評価を導入し、職員が気づく場面を作り、面談しながら職員が求めている事を把握し職員一人一人の能力に合わせた研修に参加できるように調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所のグループホームと災害時の協力支援の契約を結んでいます。同じ町内会なので、町内会の行事には、よく顔を合わせます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、本人が困っている事や要望をお聞きし、早期に不安が解消できるように、初回のケアプランに反映させています。職員は、入居前の状況をしっかりと把握し、その方らしく過ごせるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から受け入れまでを施設長と主任が一貫して関わり、ご家族が困っている事や要望が言いやすくなる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の状況を詳しくお聞きし、求めている事を見極め、必要であれば他のサービスの提案をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立の相談をしたり、食事の配膳など、一人ひとりができる事や役割的な事を見つけ一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の会話から家族の思いや願いをくみ取り、ご家族と同じ目線で支えられるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会時には、ゆっくりとお部屋で過ごせるように配慮しています。電話の取次ぎもしています。	長年親しんでいる知人とは、訪問時や年賀状など様々な機会を捉えて関係の継続を支援しています。家族と一緒に墓参りや、慣れ親しんでいる美容院通い、近くのスーパーでの買い物などの支援が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等を通じて交流できるようにしています。個々の気持ちを大切にしながら、日常の様子で気の合わない人同士の配慮に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は、対応できる体制はできています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中で、一人ひとりが特に大切に思っている事を把握し対応できるように努めています。	利用者との触れあいや寄り添う関係の中から、思いや意向の把握に努めています。日常での気付きはケース記録などに記録され職員全てが共有できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でお聞きしたり、面会の時にご家族にお聞きしたりしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日常の細かな変化を記録し、職員全員が把握できるようにしています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングを行います。本人にとってより良いものとなるように、職員の意見を反映させています。介護計画と記録が連動するように、介護計画には、番号をつけ、記録に残すようにしています。	介護計画と日々の支援の様子は、連動のする取り組みが行われていますが、一部に連動が十分でない記載もあることから、更に介護計画を意識した日々の記録を連動させることとしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書を個人記録の表紙につけておき、いつでも確認できるようにしています。こまかな事も記録に残し、職員間で情報共有できるようにしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様子の変化や要望に対し、その時に必要な支援ができるよう努めています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に行ったり、散歩をしたり、美容室や買い物に行ったりと、施設内だけではなく地域にある資源が利用できるような努めています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の医療提携病院から月2回の往診をうけ、他随時対応してくれています。他医療機関を受診するときは、ご家族に付き添いのお願いをしていますが、できないときには、施設で対応するときもあります。日常の様子や服薬の情報を提供しています。	脳外科など専門病院への通院は、家族もしくは家族の依頼を受けて通院の支援が行われていますが、普段の体調の維持にはホームの協力医療機関により月2回の往診など診療を受けて適切な医療が出来るよう支援が行われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関には、こまやかに相談でき速やかに対応してくれます。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常の様子の情報提供をしたり、本人の経過を問い合わせしたりしています。必要があれば、病院の病状説明時にご家族と出席させていただく事もあります。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事を明確にし、契約の段階で説明をしています。重度化した時にご家族と蜜に話し合いをしながらご家族の意向を十分に確認し対応します。提携の医療機関に協力を得ながら対応します。	ホームの協力医の理解の下、重度化に向けた相談など密なる関係ができていますが、重度化や終末期に向けたホームとしての方針がなく家族へ契約時の説明も不十分です。	重度化などに向けて、ホームで「出来ること、出来ないこと」を明記した方針をもとに家族には十分な説明と納得を得るよう、方針の早期作成と家族への説明を期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを掲示し常に確認できるようにしています。救急救命の講習会に積極的に参加しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難できる方法を全職員が身につけている。訓練には町内会の方にも参加していただき、協力体制を築いている。同じ町内会にあるグループホームとは災害時の協力体制ができています。	地域住民の協力体制、避難場所の家族への周知、備蓄品の確保など改善が見られます。今後は火災への備えに加えて水害や地震など自然災害への配慮もすることにしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや声の大きさには、特に気を付けている。利用者みなさんは人生の先輩なので、人格を尊重し敬語で対応しています。	職員間で注意をし合って実践されている言葉かけは、利用者の人格を尊重した的確で優しいものとなっています。ホームでは言葉かけに加えてトイレ誘導や入浴支援でプライバシーに気配りしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から思いを汲み取ったり、言いやすい関係になれるように努力しています。自分で決められない方には、選択肢の中から自己決定ができるように促します。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのタイミングを見極め、できるだけ希望に沿うように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装、ヘアースタイルなど本人と相談し、その人らしさを大切にしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感を取り入れ、利用者のリクエストにも対応しています。食事の支度や後片づけ等もできる範囲で協力し合っています。	食事の献立づくりと調理は職員が交代で行っています。食事の内容は利用者の好みや希望を取り入れながら、季節感を加味して提供されています。利用者も下拵えやお絞り配り、下げ膳など出来ることへの参加をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表には、摂取量を書き込み食べた量を把握しています。食事の形態や量など、一人ひとりにあわせて対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方については行えています。自立されている方には、声をかけて行ってもらっています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、介助が必要な方はトイレ誘導しています。トイレでの排泄に努めています。	職員は、利用者の排泄パターンを十分把握しながら、それとない声かけなどでトイレでの自立排泄を支援しています。紙おむつなどの使用に安易に頼らず、適切なパットを職員間で検討するなど、トイレでの自立排泄に向けた支援が行われています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分の声かけをしています。食事では、ヨーグルトなどの乳製品が取れるように献立に入れています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴できるように柔軟に対応しています。ゆったりと安心して入浴していただけるよう、一対一の対応をしています。	利用者の希望に添った入浴ができるよう支援が行われています。ホームでは最低週2回の入浴を支援しており、希望で1日おき、また、夕食後の入浴を楽しむ利用者もおり職員の支援が継続されています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	アイスノン、加湿器、湯たんぽ等で心地よく休息できるように工夫しています。室温や物音にも配慮しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルし、いつでも確認ができるようにしています。薬の変更や病状の変化は記録し、職員全員がすぐわかるようにしています。服薬時に間違えがないようにチェック項目を作り確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や洗濯物たたみ等の役割があり、楽しみ事として、行事や趣味の会に参加したり、誕生会や散歩などを行っています。誕生日はその方の希望を叶える行事になっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は毎日のように日光浴をしたり、外出行事を設けたり、本人の希望で美容室や買い物に行ったりしています。	夏季の暖かな日には毎日の散歩で外気浴を楽しんでいただいています。小さな菜園での花々を育て、愛でながらのんびりと過ごしています。買い物やドライブでの観桜行事に外食も加わり、閉じこもりがちによるストレスの解消も大切な目的とした支援が行われています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額でなければ、本人が持っている事がありますが、ほとんどの方が事務所で預かっています。本人がほしいと思った物や必要なものは、速やかに購入できるように対応しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいて、使い方がわからない時は教えたりしています。希望のある方は、速やかに対応します。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清涼感があり、落ち着いて過ごせる雰囲気づくりを心掛けています。季節感を取り入れた飾り付けにも工夫しています。	平屋に二つのユニットが並んで建てられたホームは、二つの玄関、ユニットを結ぶ廊下など、それぞれの機能が発揮できる設計となっており、落ち着きのある色彩の廊下は、居室までの安心を誘導しています。居間と食堂も広い開放感があり、温度、湿度の管理も徹底され快適な共用空間となっています。居間の大きなソファは座ったときに腰が深く沈まないようソファに台座を設えるなど工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席やソファの位置、居室で過ごす時間等、一人ひとりにあった居場所づくりをしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットやタンスを置いていただいたり、ご家族の写真を壁に張ったり等、家にいるような雰囲気づくりをしています。	出来るだけ家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるよう慣れ親しんだ生活用品などの持込みを、家族と職員と一緒に考えています。レイアウトも利用者や家族の意見を取り入れ利用者が心地よく過ごせるよう気配りされています。家族の笑顔溢れる写真の掲示や仏壇も置かれているなど温かな生活の習慣に囲まれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タオル交換、新聞たたみ、テーブル拭きや食事の支度、配膳等、それぞれができる事を支援できるように工夫しています。			